

韓国了共公 運動史

日本語 訳 Vol. 3

第3章 戦闘期

第2節 国内運動

第3節 日本内運動

発行

黒色救援会

1980. 8. 15

定価 300円以上 千200円

第2節 国内運動

〈光州学生運動後の学園動態〉

1931年9月日帝の満州侵略以来、朝鮮はその兵站基地としての位置にあった。従って、日帝はありとあらゆる朝鮮国内の独立運動や社会運動に対し極端な弾圧を加えていた。

この時、国内アナキズム運動の主力は、おおけた投獄されて、残余勢力も大部分地下に潜伏せざるを得なかった。民族系や共産系にあっても事情は同じことであった。

しかし学生社会にあっては、1929年の光州学生事件の余波が、今も余を残していた。光州事件当時ソウルでは、京城帝大の玄永燮、鄭鹿潁、李鍾駿、曹圭宣、中東学校の梁-東、李何有、徴文高普の張洪琰、普成高普の趙漢、高信均、第二高普の河公鉉、河岐洛、晋州農校の全周泰、大邱高普の車泰元、大邱僑南学校の宋命根らがこの運動の先頭に立っていた。河公鉉は第二高普の、李何有は中東学校の張洪琰は徴文高普の指導者として検挙されて西大門刑務所に投獄されて、他の学生たちは退学または無期停学処分を受けた。梁-東は退学処分を受けて1930年3月吳在徳、李永らと共に北京に行き、張洪琰も釈放された後、北京へ行った。彼らは北京で白貞基、丁來東、吳南基、鞠淳榮などと接触した。梁-東は万宝山事件後の1931年秋に再び東京に渡り、東興労働同盟と「黒色新聞」で活動したが、1935年5月治安維持法違反で3年6ヶ月の刑を受けた。李何有も釈放された後、東京へ渡りアナキスト運動に加わった。李錫圭は東萊高普退学後上海に渡り東方無政府主義者連盟の国内代表として参加したが、李丁奎と同じく逮捕されて、上海で執行猶予により釈放されて国内に追放された。彼は帰国後、普成高普に編入学した。河岐洛も1年後に中央高普に編入学した。

普成高普の趙漢膺、南相沃、高信均、李錫圭、貝滋益、中央高普の河岐洛、張鉉稷、中東学校の高舜旭などは、校内に学生アナキストサークルを作って東京との連絡をとりながら学生運動をなげうつ。3年間の服役後出獄した又藎見、李丁奎と度々接触しながらその指導を受けた。趙漢膺は普成高普卒業後、延礼専門に入学し、張鉉稷、高舜旭などと共に学生アナキスト運動を継続しながら、1935年晦観李乙奎の令であり彼の同志でもある李仁玉と結婚して、1977年この世を去るまでその一生をアナキズム運動にささげた。宋命根と車泰元は釜山での反戦ビラ散布事件で、1931年12月に検挙された。鉄山の鄭哲は光州学生事件当時、中学連合大会を主導するなど抗日闘争の先頭に立った。

〈晋州農校 秘密結社事件〉

1931年2月18日晋州農業学校 第一・二・三学年の学生が退学者の復校など

を学校当局に要求したが入れられず、同盟休校に入った。(1931.2.20 東亞日報)
 同年3月24日 同校学生秘密結社「同侪会」(T.K団)が発覚して20余名が
 検挙された。(最近にあるの朝鮮治安状況参照) 同年11月10日 再度 晋農学生10
 余名が検挙された。(独立運動史 第8冊 文化闘争史 45面)

この事件は晋州地方法院で次のように判決された。

関係者	出身地	言渡
朴鳳■賛	晋州	10ヶ月 執行猶子 3年
趙鏞基	〃	〃 〃
河忠鉉	咸陽(安義)	〃 〃
金大奇	咸陽	6ヶ月 〃
李德基	陝川	〃 〃
薛昌洙	晋州	起訴猶子
金慶執	泗川	〃
朴夢世	晋州	〃

彼らは晋州農学校一学年在学時(1930年)抗日闘争秘密結社である同
 侪会(T.K団)を組織して、原稿を集め綴った後『叛逆』と表題を付け輪読
 しながら、江辺や山間でしばしば秘密集会を持ち運動の拡大を目ざした。■
 1931年2月の同盟休校には彼らが主導的役割を果たした。同年に晋州署により
 『叛逆』が摘発され、彼らの秘密組織が発覚した。河忠鉉(河岐沓の)
 は前記同盟休校事件で退学処分を受けて、同年秋にソウル敬信学校に編入学
 したが晋州刑事隊によって晋州に押送された。彼は1945年8月16日安義駐在
 所で日警の武装解除を行なおうとしたが、銃撃を受けて胸部貫通傷を被り
 1年間の治療の後回復した。

薛昌洙はその後1941年日本大学芸術科在学時芸術運動を通じて抗日
 運動を通じて抗日運動を広げだしたが治安維持法違反事件のため釜山地方
 法院で1942年6月2日懲役2年の言渡しを受け、1944年3月4日満期出獄した。

咸興高普では、アナ系 正進青年会の指導以来、1931年3月から1933年5月
 にかけて校内学生サークルの植民地教育反対闘争が継続されていたが、黒赤
 (ア・ボル) 両系学生達は 様々な面で衝突状態をもたらしていた。

＜抗日反戦闘争＞

満州事変を前後して各都市・工場地帯に労働者の怠業・罷業、学生たち
 のじう散布等、各種形態の抗日反戦闘争が漸次激化し始めた。平壤
 では関西黒友会の支援以来、洋靴職工組合と平元工務工場職工達が賃金

引き上げ要求を掲げて罷業に突入した。釜山でも各工場地帯で各種のビラ散布事件が発生していた。この時期の新聞報道は厳格な統制を受けていたが、この種の表面化した事件だけでも、甚だしく新聞紙面を埋めていた。

1932年2月18日付 東亞日報は「1931年12月9日午後1時、満州出兵の糧隊送迎をした帰りの群衆に荷運び人夫をして反戦檄文を散布させた。所謂第2次大邱反戦檄文事件は、荷運び人夫の口から端緒を得て、主犯大邱嶺南学校学生 宋命根(20)を検挙した後、慶北警察部高等課と大邱署高等課は、その後継続し連累者として真友連盟関係者 海雲(27)と大邱高普通退学生 車奉元(20)を検挙取調した結果、檄文散布に対する自白を得て取調べを終え、近日に大邱地方法院検事局に移すもよう。」と報道した。

3ヶ月後の5月15日付 同紙は、

「釜山赤色ビラ事件と前後して黒色ビラが3種位各工場地帯に撒きちらされていたことが発覚したが、彼は去る3月10日の夜にビラを撒いたが警戒中の刑事隊に逮捕されたが、会合への参加を呼びかけたビラと2種類の檄文を謄写版で印刷して散布したものである。去る10日 警察取調べを終えて拘留者3名が釜山検事局に移されたが、罪名は出版法及び保安法違反であり、関係者は咸尙鎬(25) 金始学(22) 金徳祚(19)などである。」と報道した。

同年 鉄山黒友会の鄭哲は 総督暗殺を陰謀した嫌疑を負って逮捕され送局されたが、1年半後に起訴猶予で釈放された。

忠南礼山人、成璠鎬は 黒色運動社という雑誌を計画中、1932年9月 温陽署によって検挙された。9月19日付 東亞日報は次のように報道している。

「忠南、温陽署では、今年4月28日 礼山邑、成璠鎬の検束を始めとして、京城、平壤、唐津各地でアナ系青年を数十名検挙し、140余日留置して署長以下高等系職員らは取調べに苦心していたが、何の根拠もなかつたために、やむなく釈放し、成璠鎬だけ治安維持法違反の罪名をつけて去る11日公州検事局に移して、京城自由連合社主幹 金南海は無事に釈放されたという。」と報道して同月27日 継続して「礼山、成璠鎬が治安維持法違反で送局されたことは既報の通りであるが、彼は警察で供述したところを全て否認したので審理は遅れ、去る24日予審に回付されたという。」と報道した。

同年10月10日付 同紙は「清津警察署では、前月に入ってから活動を開始し無政府主義系の姜圭、朴成鎬など青年多数を検挙取調べすると同時に富寧、鏡城各地でも同系青年を多数検挙して以来 厳重な取調べを行っていたが、検挙総人員数は10余名に達したという。」と報道した。

同年12月23日付 同紙は再び礼山事件に関して「礼山検挙事件の内容は

絶体秘密であるから知れるはずがなほ即報した自由連合社事件は、成増錫と何の関係もないことが判明した。警察署留置場は狭く温陽と天安2ヶ所に留置していたという。」と報道した。

1933年には慶北地方で黒色青年自由連合が労働者達を先導し、抗日反戦闘争を起こしていた。同年7月19日付東亞日報は「アナ系黒色青年自由連合会という秘密結社を組織し奉化郡及城面と牧野面の2ヶ所の砂防工事に従事する人夫を先導した。慶北奉化郡、金昌臣(28) 金重文(21) 金德基(20) 金重憲(20) 金東烈(19) 外7名は、去る5月末奉北署に検挙され取調べ中であつたところ、17日前記5名は拘留し、残りは不拘留とし、大邱地方法院検事局に送致したという。」と報道し、翌年3月2日「漆谷郡枝川普通学校教師であつた金昌臣らの黒色青年自由連合会事件は、この間大邱地方法院予審に附され有沢子審判事の手で審理中であつたところ、27日判決されたという。金昌臣、金重文、金德基ら3名は暴力行為、治安維持法違反併合罪で有罪と決せられ同法院の公判に附された。」と即報した。

〈第1楼事件〉

「1934年10月10日頃 鍾路警察署は突然大活動を開始し、府内各所で無政府主義者、張完局、金顯国(南海)、李丁奎、李乙奎、李英鎮、柳南洙、吳南基などを逮捕し、以來嚴重取調べ中であつたところ、突然緊張した同署白、平田 兩刑事は関西地方と湖南地方へ出動し、平壤で同系巨頭金子剛、湖南地方で李某などを逮捕して來て嚴重取調べ中であつたが、同事件の検挙旋風は全朝鮮に拡大するもよう。」(10月23日付 東亞日報)

李乙奎などの第1楼事件は1934年10月10日頃に京城鍾路警察署によつて検挙され、12月6日午前10時頃、一件書類と共に送局された被疑者は次のとおりである。

京城府	通義洞 63	李丁奎	38才
中和郡	新豊面 大奇岩理	蔡殷国	32才
高陽郡	龍江面 大水溢里	李乙奎	41才
京城府	笄井町 257	吳南基	29才
統營邑	曙町 251	崔学桂	29才

事件内容は「長らくなりをひそめていた国内外の無政府主義者達が再び互いに連絡をとり合い、もつてある策動をしようとして漸次朝鮮内に集中する様子を探知して、疾風迅雷検挙を始めたというが、このたびの事件の重要な関係者である平壤の無政府主義者蔡殷国は検挙が始まるや直ちに、自身の言動の結

果を甘受することなく身を隠してしまひ。警察は今まさに全力で彼の行方を探しているという。」(10月2日付朝鮮日報)

蔡殷国は11月15日、平壤で逮捕された。「取調中、今迄に判明した事■件の内容は、彼らがその行動に於て、無政府主義思想を宣伝鼓吹して大衆をその翼下に集めようという目的で出版物の刊行を計画したことだという。」(11月16日付朝鮮日報)

「これらは直接、間接に互いに連絡を取り合い、無政府主義を研究して秘密結社を組織したということである。この外にも事件関係■嫌疑者は多数であり、この間 検事局の取調べを受けたが、その結果 嫌疑、証拠とも不十分で即日釈放された人達も多数であったという。」(12月7日付 東亜)

「同年12月17日■李丁奎、蔡殷国は治安維持法違反罪で予審に回附され、李乙奎、吳南基、崔学桂は不起訴処分とされた。」(12月19日付 東亜)

1935年12月末予審が終結し翌年2月 蔡殷国、李丁奎は各々3年の刑の言渡しを受けた。(未決通算250日)

李丁奎の『又観文存』の年譜によれば「10月に数同志達の一席会合が日警で問題とされて虚構の治安維持法■違反事件として拡がり、所謂第一樓事件で蔡殷国と私2人だけ予審に回附されて仲兄、乙奎、吳南基、崔学桂ら各地方同志達は不起訴とされた。」という。

〈朝鮮エスパラント運動〉

洪亨義(1910~1968)は咸南 洪原郡 龍源面 龍湖里で洪性震の長男として生まれた。洪性煥とは叔姪の間柄である。開城商業在学時は学友金龍浩(安州出身) 鄭哲(鉄山出身)らと共に学生運動に参加して卒業後は、1931年4月 日本大学に入学して1933年2月から黒友連盟に加盟し、韓何然、洪性煥が創立した『自由コミュニオン』を編集した。1934年エスパラント語小説「農村開拓者」を『行動者』という文学雑誌に連載したが学生事件に関連し日本で出版された。一時言論界に関係したが、1937年から「朝鮮エスパラント文化社」を創立し純エスパラント語の「ユリア エスパラント」を発行した。

1968年3月11日 大邱で 他界するまで30余年間 アナキスト・エスパラントとして我が国でのエスパラント発展に貢献が大きい。1939年3月に日帝の弾圧でこのエスパラント誌は廃刊された。

全世界のアナキストは 国家と民族を除外した人類愛と平和主義を根本理念とするエスパラント世界語精神に共鳴して、新聞・雑誌には常にエス語欄を置いてその普及に力を入れている。洪亨義のエス語運動はすべてエスモロリア的

な平和主義運動であつて、各国のアナキスト運動の連帯性を強化することに寄与するところが大きかつた。彼はその他にも崔海清と手を握り勤労者教育機関として大邱 青丘大学の育成を行つた。

〈先駆読書会〉

1938年 梁熙錫、高麟燦、李喜鍾らを中心として先駆読書会という思想研究団体が組織された。李喜鍾が大田警察署に検束されたが、この読書会関係は自白しなかつたので発覚はまぬがれた。その後彼は行方不明になつた。1943年に梁熙錫は金相哲、高義鍾、高雲昊らと共に第二次読書会を組織した。この結社も鍾路警察署の探知するところとなつたが、今回もまた物証を捉えられず、摘発はまぬがれた。

この読書会は本来、1923年李康夏を中心としてソウル義州■通で組織された黒労会に端を発している。黒労会は国内で最初に織組されたアナキスト団体であつた。この団体は天道教講堂の講演会を成して主義の宣伝を拵げたが警察の襲撃で中断されて、その後李康夏は大田監獄で獄死した。黒労会関係者達は次の通り。權泰龍、鄭昌燮、李徳栄、貝泰成、金昌根、梁熙錫（黙堂、第1高普在学時）などである。